

境川をもっとよい川にしよう〔総合的な学習の時間の実践より〕

相模原市立宮上小学校

1. 実践の内容

本校は境川に隣接しており、子どもたちは日頃から川で遊ぶなど愛着を持っている。3年生の総合的な学習の時間の学習対象を境川として様々な体験活動を行い、境川をよりよい川にするための活動を考え、自分たちでできる具体的な取組を実践している。また、境川の環境保全に携わる人との交流をとおして「いつまでもきれいな川であってほしい」という願いを共有し、地域への愛着や地域社会の一員としての自覚を高めながら、境川を大切にしようという実践意欲を育てている。

2. 実践の内容と成果

(1) 川沿いに花を植えよう

1学期に境川の美化活動を長年やってこられた方の話を伺ったことをきっかけとし、児童は、自分たちもやってみようと試行錯誤を繰り返しながらも、種からホウセンカを育てた。また、1学期に植えたホウセンカがなくなってしまった2学期にも、花があるとごみを捨てる人が減るだろうという思いから、継続してピオラを植えた。



(2) 境川の生き物を調べよう

境川をきれいになると、次はもっと鳥や魚が増えてほしいという欲求が出てくる。しかし、児童は川にどんな生き物がいるのかがよくわからなかったため、まず、川にいる生き物を調べることとした。

9月下旬に、内水面試験場の方を講師にお招きし、境川の調査を実施し、アブラハヤ・オイカワ・クサガメをはじめとするたくさんの生き物を見つけることが出来た。パックテストの結果や絶滅危惧種の生息が確認されたことから、境川がきれいになっていることを実感できた。

(3) 境川をきれいな川にしよう

今までの活動と自分たちの思いをお世話になった方々や家族に「伝えたい」ということを考え、今後は発表会に向けた計画を進めていくこととなっている。また、自分たちが先輩から引き継いで行ってきた境川の美化活動を、来年の3年生にもぜひ引き継いでほしいという思いを持ち、今の2年生にメッセージを送ることも考えている。



3. 今後の課題

例年、境川を大切にしようという子どもたちの願いを引き出し、川との関わりを繰り返す体験活動を取り入れた総合的な学習の時間を展開しているが、その活動を支える地域の方々や保護者の協力が欠かせない。川の環境保全に携わる様々な方面の人と交流することで、自分たちの暮らしを支える人々についての理解を深め、自分が地域の一員として共に生きる存在であることに気づき、よりよい地域社会をつくらうという資質を育てることにつながることができた。振り返りや報告活動を充実させ、自分の成長に気付かせ、今自分に出来ることを実践しようという意欲を、今後も持ち続けられるようにした。また、継続的な活動が可能となるような支援をしていきたい。